



# 国際化の最前線から



## ニューノーマル時代における「インターンシップ」授業の取り組み

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授 内藤 稔

筆者が所属する東京外国語大学では、多文化共生社会の構築をめざし、さまざまな社会連携に取り組んでいる。そのうちの1つが、大学が位置する東京都・府中市との相互友好協定であり、2006年の連携締結以降、学術研究の向上および地域社会の発展に寄与することを目的として、国際化や人材育成などにおいて連携を図っている。

筆者は大学において、「言語的マイノリティを通訳・翻訳面から支援することによって、ホスト社会につなげる橋渡し役」とされる「コミュニティ通訳」の研究・教育を担っている。その一環として、学部生向けの開講科目「インターンシップ」がある。この授業は府中市役所および府中国際交流サロンとの協働により開講されており、毎年選定されたテーマに沿い、春学期には学生が府中市内に暮らす外国人住民らとの「交流会」を企画・運営するほか、秋学期には「外国人のための生活便利帳」（以下、便利帳）の作成にあたっている。「やさしい日本語」で書かれた便利帳は、冊子として広く府中市内で配布されるほか、市役所のWebページ※でも公開されており、「子育て」「防災」「ごみ出し」「高校進学」「部屋探し」など外国人住民の暮らしに特に密着したテーマに基づき、作成を重ねている。

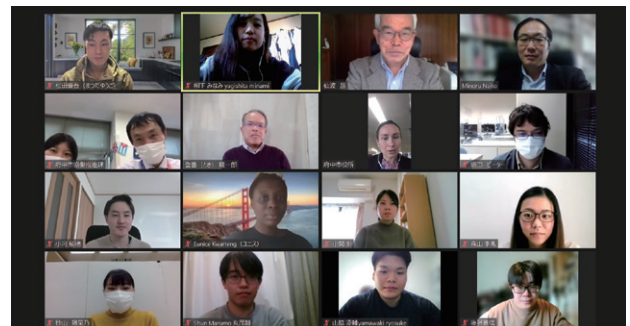
新型コロナウイルスのまん延により、本学も他大学と同様、対面形式と遠隔形式を並行しつつ、授業運営に当たることとなった。「インターンシップ」においても、2021年度も一部でZoomを活用しながら、サロンの日本語学習ボランティアや外国人住民らとともに、便利帳作成に向けたアンケート調査に加え、合同検討会や意見交換会などをオンライン上で積極的に進めている。

2021年度の便利帳のテーマは「府中のさんぽみち」である。コロナ禍においても、密を避けて楽しむことができる市内の散歩スポットを外国人住民に紹介したいとの願いによるものである。ニューノーマルな授業方式により

作成された、ニューノーマルな時代に合った便利帳の完成が今から待ち遠しい。完成は、春先を予定している。

※府中市「外国人のためのやさしい生活便利帳」

[https://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/kokusaikoryu/seikatsujoho/seikatsu/yasashiibe\\_nricho/index.html](https://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/kokusaikoryu/seikatsujoho/seikatsu/yasashiibe_nricho/index.html)



オンライン上で開催された「インターンシップ」の意見交換会



これまで作成された「外国人のための生活便利帳」

### プロフィール

内藤 稔 (ないとう・みのる)

慶応義塾大学総合政策学部卒業。モントレイ国際大学大学院・会議通訳課程修了。日本通訳翻訳学会副会長。日本経済新聞社編集局記者、大手外資系企業での社内通訳者などを経て、現職。東京外国語大学多言語多文化共生センター社会貢献部門副部門長。自治体国際化協会地域国際化アドバイザーを務める。主な著書に『コミュニティ通訳 多文化共生社会のコミュニケーション』（共著、みすず書房）、『よくわかる逐次通訳』（共著、東京外国語大学出版会）。